

學者の見た混泥土工事

九月十五日のセメント界彙報に發表された、九大吉田徳次郎博士の混泥土現場試験第二回報告に依ると、中々徹底した事を述べられてゐる。中に

1. 材料の計量に就いてはセメントを重量で計算して居る現場の比較的尠い事。
2. 此點は建築工事の現場が土木工事の現場よりも一般に優つてゐる事。
3. 砂の膨みの影響も考慮しない現場の多い事。
4. 施工を容易にする目的で過多の水量を使用してゐる事。
5. 現場の調子が少し悪くなつて來ると、ミクサーに材料の投入を終つてから三十秒も経たないのに混泥土を吐出す様な事。
6. 種卸しによる混泥土の流込みは種々の缺點を伴ふものであるが其所に注意を拂つてない事。
7. 混泥土の打方、搗固方人夫の編制に就て一般に注意が足りない事。
8. 監督者に混泥土施工全體に就いての頭の働せ方が足りない事。
9. 何程の強度の混泥土を製作するのであるかを全く知らない監督者のある事。

以上が主なる現場の缺點であるが、之が改善のため速に、無知な無研究な現場員を混泥土工事から撤

退すべきであると思ふ。

現場に於ける混泥土の強度試験の結果は、一々條件を詳細に摘録されてゐるが、一二を掲げて見ると

或橋梁の混泥土工事は施工良好で、スランプ3.5cmで、強度 179kg/cm² であるに對し、他の橋梁の混泥土工事は水量多く、型枠も貧弱で、スランプも測定してゐない有様で、強度も 80kg/cm² しかない。

以上何れも 1:2:4 の混泥土であるが、施工上の僅かの注意で強度の差は實に大なるものとなつてゐる。然も其強度の小なる方は工費が却つて高くなつてゐる。

結局悪いものが高いばかりでなく、強度の小なるものは建造物全體の經濟的價値を落す事となる。即ち合理的な施工は何よりの經濟である事を明に示されてゐるものである。

或鐵道の暗渠の混泥土工事に於て、總てスランプテストにて稠度を調べつゝ、施工されたものを見るに

スランプ 8cm のものは強度 153kg/cm²

スランプ 5.6cm のものは強度 189kg/cm²

スランプ 0.3cm のものは強度 195kg/cm²

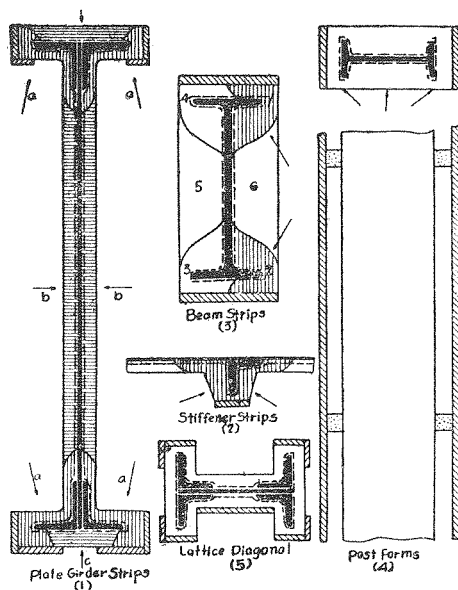
となつてゐる。以上何れも 1:2:4 配合の混泥土であるが、現場擔當者に混泥土施工上の知識と實行力とがあれば此程度の均一強度は得られると言ふ事が知られる。

出來上り面は良好なりき。

型枠費 (第九表)

名稱	品質形狀	數量	單價	金額
大工		人 20.9	2300	48070
計				48070
大貫	長 12.0 呎	丁 280	0.250	70000
棟木	0.8 米角	間 150	0.035	5250
釘		貫 3	0.600	1800
計				77050
合計				125120
吹付面積				0460
1 平方當				

(以下次號)



フランジやスチフナー等の隅角仕上を完全にする型枠圖